


ライフステージごとの取り組み

計画の視点	めざす姿 (基本目標)	指標	現状値 (H28)	目標値 (H34)	乳幼児期 (0歳～5歳)	学童・思春期 (6歳～19歳)	青年期 (20歳～39歳)	壮年期 (40歳～64歳)	高齢期 (65歳以上)	
					望ましい食習慣の 基礎をつくる	自立に向けた 望ましい食習慣を確立する	健全な食生活を 実現する	健全な食生活の維持と 健康管理を行う	食を通じた豊かな 生活を実現する	
④ 学校、幼稚園・保育所等における食育の推進 ① 生産からつながる食育の推進 ② ライフステージに応じた食育の推進 ⑤ 地域における食生活改善のための取り組みの推進 ③ 家庭における食育の推進	基本目標1 食育を通じた健康づくり	毎日朝食をとる 20歳以上の 市民の割合	80.7%	85% 以上	食べたい物を増やす 発育・発達に応じた食事をする かむ機能を育てる			食べ物をおいしく食べるため、歯と口腔の健康を保つ よく噛んで食べる	 熱中症 熱失神 熱疲労	
	基本目標2 食を通じた豊かな心と地域の交流の形成	家族や友人と 1日1食以上、 食事をする 市民の割合	34.1%	75% 以上	乳幼児健診：離乳食講座 栄養教諭・栄養士による食に関する授業		栄養バランスのとれた食事をし、生活習慣病を予防する 望ましい食習慣を身につける	栄養バランスのとれた食事をし、生活習慣病を予防する 体調に合った食生活をおくる 低栄養と虚弱化を予防する		
	基本目標3 安全、安心で環境にやさしい食生活の推進	食品の安全性に 関する基礎的な 知識を持っている 市民の割合	72.4%	87.6%	90% 以上	調理等の手伝いをする 生きる力・生活力の充実：カレーパーティー 自然や食べ物に触れる	会話(乳児期は声かけ)をしながら、楽しく食事をする 調理の基本を学ぶ 栄養バランスを考えた調理をする 農林水産業体験等を通して生産や流通を学ぶ	食育ネットワークの構築：具沢山みそ汁レシビコンテスト 健康づくり運動実践事業：減塩味噌汁試飲会 旬の野菜を使った料理教室 農林水産業体験を通して地場産品を意識するとともに、自ら栽培等に取り組む 教育ファーム：米作り	共食(きょうしよく)とは 一人で食事をするのではなく、誰かと食事を共にすること。 家族や友人が食卓を囲んでともに食事をとりながらコミュニケーションを図ること。	オーナー事業：たまねぎ作り 小田原産品のPR
	基本目標4 食文化の継承	地域や家庭の料理や作法等を受け継いでいる市民の割合	55.4%	65.7%	90% 以上	食事の際のあいさつ、マナーを身につけ、あいさつの意味を考える 伝統料理を知る		次世代に食のありがたさ、大切さ、知識を伝える 食文化について理解を深める 伝統食などの食文化を継承していく	かまぼこ作り体験	
	基本目標5 連携・協働による食育の推進	食育に関心を持っている市民の割合	65.7%	90% 以上		食に関する興味をもち、食の大切さを認識する		積極的に食育に関する情報を得る	経験や知識を生かして食育活動に参加する	生ごみ堆肥化事業：生ごみサロン